

令和4年度 第4回大府市協働推進委員会 会議録

開催日時 : 令和5年3月19日(日)午後3時45分から午後4時15分まで
開催場所 : 大府市民活動センター「コラビア」会議室
出席者 : 昇協働推進助言者、
深谷委員長、鈴木副委員長、成田委員、吉村委員、池澤委員、
前原委員、亀山委員、山内委員
事務局(部長、課長、係長、主事)の計13名
欠席者 : なし
傍聴者 : なし

(司会・進行:協働推進課長)

1 あいさつ(委員長)

実績報告会では、ご意見が活発に出てとてもいい会になったと思う。昨年昇先生の最後のご講評で少し厳しめの言葉をいただいたような記憶があるが、今年は大学の講義のようで、聞いていてとても勉強になった。本日の協働推進委員会は、令和5年度に新しく始まる事業の応募要項を検討する会なので、令和4年度に比べてもっとこうした方がよかったなどといったことを積極的に話し合えればと思う。

2 議題

(1) 令和5年度協働企画提案事業交付金応募要項について

事務局から、令和5年度協働企画提案事業交付金応募要項について、令和4年度からの変更点を中心に説明。

- ・継続的なものを想定しているため、単発のイベントを除外
- ・記載する事業例の見直し
- ・審査の結果、交付金額の合計が100万円を超えた場合に交付対象経費から減額する旨を明記
- ・必要書類のうち、事業執行可能交付金額見積書を削除

【質疑応答】

委員長:メインは、単発イベントは避けましょうということか。

事務局:はい。

委員:今年度でいうと、Baby Stepは見る限りだと単発イベントのように感じるが、こういったものは来年度だと対象外になるのか。

事務局:来年度の解釈でいくと対象外になる。協働の事業は前提として、こういったことを社会課題として解決したいという土台があり、その中の一要素としてイベントがあるということだと思う。今年のBaby Stepさんだと、企画段階から気球を飛ばすための打合せをしたり、終わった後の振り返りをしたりと、事業全体のうちの一部として気球を飛ばすというイベントを行うのであればよかったのではないかと感じる。

委員:実績報告を聞くと、他にも活動を行っていたように思うが、それが事業計画には一切載っていなかった。

事務局:これについては、申請を受け付ける段階で気球を飛ばすという企画

を出されてしまうとなかなか厳しいが、ヒアリングの中でどういう主旨で気球を飛ばすのかということを知りたいと考えている。

委員：ぜひ事前にヒアリングをしっかりと行っていただきたい。

委員長：Baby Stepが行ったイベントのうち、3回中2回は名古屋で行っているが、主たる効果は大府市にある必要があるのではないか。目安として3分の2は大府市内でやらなければいけないなどといったことはあるのか。

事務局：例えば、三つ葉の発表の中で、どれくらいの方が市内の方かという説明があったが、福祉的な補助金の観点で見ると、その子たちだけではなく、市外の同じ状況の子と関わるというのが事業全体にとってプラスとなるという説明がされている。本交付金についても、数字で線を引くのは難しいが、やはり3分の2は市内の方を対象にしたいと思う。しかし、半分だから良くないといったことは言えない。今後聞き取りの中で、市内での効果の割合が少ないのであれば、他の市の対象者との関わりの中でどういう効果があるのかということを確認していきたい。一概に線を引くということは、現時点では考えていない。

委員長：数値で切ってしまうともったいない部分もあるので、あえて言わずに、ということか。

事務局：明らかに市外の子ばかりであるということがあれば、厳しく見ていきたいと思っている。

委員：団体がチラシ等を作る際に、大府市協働のまちづくり推進基金を使っているという文言を入れれば、名古屋などで配るときに大府市のPRになる上に、本人達の意識も上がってくるのではないか。

事務局：応募要項には記載していないが、採択され、交付決定をされた段階でチラシ等を書いてもらうように伝えている。

委員長：協働企画提案事業についての市のウェブサイト QRコードにして、チラシ等に載せてもらうのはどうか。コラボが進んでいて、同じような人が申請していることが最近多いが、QRコードが付いていると、新しい人にこの制度について知ってもらえるようになるのではないか。

事務局：文字だけではなくQRコードを付けて、この制度を知っている人以外にも伝えられるようにしたい。

委員：ひとまちおうえん基金があることによって、団体の可能性が広がった。今後も可能性を広げていくために、交付金の上限100万円をもっと広げることを市としては考えているか。

事務局：今年度は採択団体が多く、交付金額の合計が100万円を超えてしまった。各団体が申請できる上限は30万円としているが、様々な財源がある中で、この制度に対する依存度を高くしてしまうと、交付申請ができる3年間で終わってしまったときに事業が止まってしまう可能性もある。今後も採択団体が多いという状況が続けば、予算規模についても考える必要があると思っている。現時点では、それぞれの団体が足りない財源を考えてもらい、有効に100万円を使っていきたい。

委員：ひとまちおうえん基金への寄附が、今年度は2社からのみで少ないように感じる。

事務局：寄附者は少ないが、金額は昨年度より多い。寄附していただく企業を増やすのは課題である。

委員：寄附してくれた企業に、活動のフィードバックはしているのか。

事務局：寄附をしていただくときに、どういう主旨で、何に使っているかということは丁寧に説明している。

委員：寄附をしてくれた企業のアピールをし、メリットを与えてあげるのが良いと思う。そうすれば、寄附をしてくれる企業がもっと増えたり、認知度が上がったりするのではないかと思う。

事務局：寄附の性質上、企業のPRはできないが、寄附をいただいたときに広報おおぶにありがとうございますと、感謝の意を掲載させていただいている。

委員：BUNKAIとおさんぽやなないろなど、団体同士のつながりがあるのはとても良いと思う。上手く横のつながりを強くしてあげれば良いと思う。

事務局：今年の実績報告会では、団体同士の名前が飛び交うことが多かったと感じる。他の団体との連携を大事にし、つながりを広げていければと思う。3年目以降の支援について、団体が自分で活動資金を集めるということももちろんだが、協働の主体には行政がおり、事業の中身によっては別の支援につなげることもできると思うので、そういったことも意識していきたい。

委員：全体的に子ども絡みの支援が多いように感じた。こういった交付金をもらって活動しているとなると、お金を支援しなければ子どもを支援できないのか。助成金だけで子どもの支援をまかなっていくのは良いのだろうか。制度を利用しなければ運営をするのが厳しいとなると、継続するのが難しいのではないかと思う。

事務局：制度を利用しなければ活動が終わってしまうのであれば、何のためにお金を出しているのかということになる。市民活動だけでなく、他のことについても協力していきたい。

委員：自治区もさまざまな問題を抱えているので、今後もコミュニティや市と協力していきたい。

(2) 令和5年度NPO法人立ち上がり支援事業補助金応募要項について

事務局から、令和5年度NPO法人立ち上がり支援事業補助金応募要項について説明

- ・立ち上がったばかりのNPO法人が安定的に運営できるようになるまでの間、設立手続きに必要な経費、賃借料や通信運搬費などを補助
- ・令和4年度からの変更箇所はなし

【質疑応答】

質問、意見等なし

3 その他

●事務局から

- ・今回の審議会の謝礼は、後日お振込みさせていただきます。

- ・令和5年度第1回大府市協働推進委員会は、5月24日（水）の午後5時30分から大府市役所2階 203・204会議室にて開催する予定。

●委員から

- ・今、市内には多くの市民活動団体がある。先ほど昇先生から、3年経ったら終わるのではなく、何か事業を作ったらどうかというお話があった。もともと市には、事業提示型協働事業という制度がある。市の直営のものをもう少し事業提示型協働事業に移し、市民活動団体へ委託するというのを来年度検討しようということで、各課に投げかける。今後、事業提示型協働事業が挙がってくるかもしれない。

—以上—